

いばらきネットモニター 農業・農村に関する認知度及び意識調査

1. 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：平成30年9月4日（火）～9月16日（日）まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

いばらきネットモニター数：352名（県内モニターのみ）

回収率53.4%（回収数188名）

回答者の属性（百分率表示は小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある）

		人数（人）	比率（%）
全体		188	100.0
性別	男性	102	54.3
	女性	86	45.7
地域	県北	19	10.1
	県央	68	36.2
	鹿行	12	6.4
	県南	71	37.8
	県西	18	9.6
年齢	10歳代	0	0.0
	20歳代	7	3.7
	30歳代	36	19.1
	40歳代	38	20.2
	50歳代	42	22.3
	60歳代	32	17.0
	70歳以上	33	17.6
職業	自営業	8	4.3
	会社員	63	33.5
	団体職員	5	2.7
	公務員	3	1.6
	主婦・主夫	48	25.5
	学生	2	1.1
	無職	43	22.9
	その他	16	8.5

(2) 調査目的

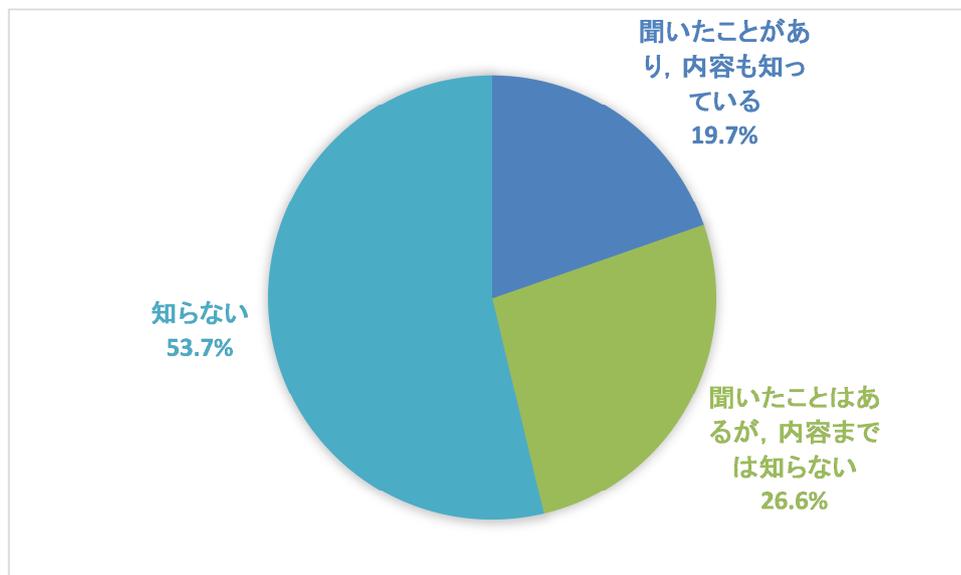
農業・農村の持つ多面的機能や広報に関する県民の認知度と意識を把握し、今後の施策の参考とするために実施するものです。

担当課 茨城県農林水産部農地局農村計画課

電話：029-301-4150 E-mail：nokeikaku3@pref.ibaraki.lg.jp

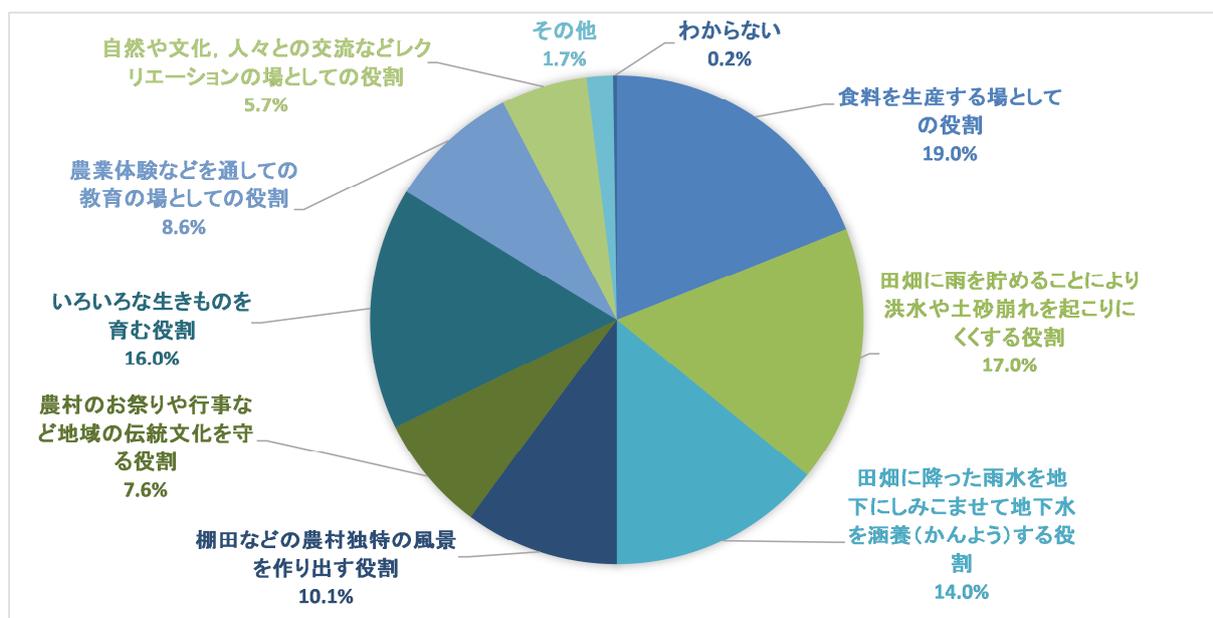
1. 調査の結果

【問1】農業・農村には食料生産の場だけでなく、洪水を防ぐ機能や生きものを育んだり、景観を保全したりするなどの機能があり、これを「農業・農村の多面的機能」と言います。あなたは、この言葉を知っていますか？次の中から、あてはまるものを一つ選んでください。



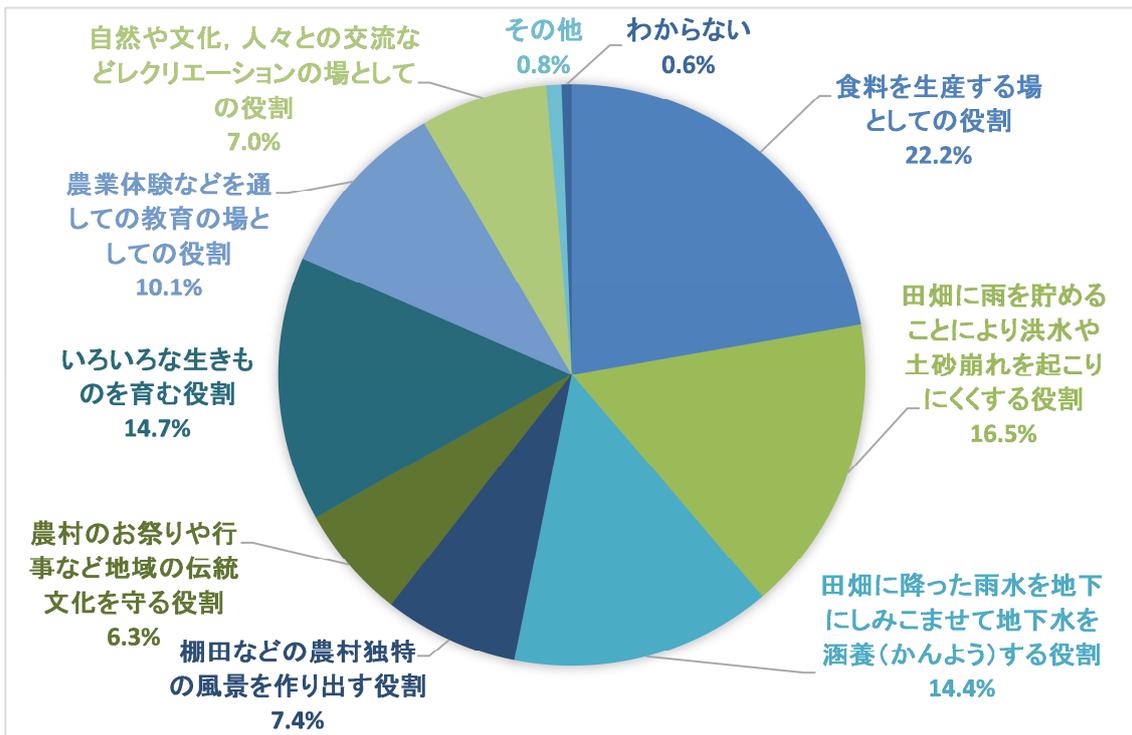
「聞いたことがあり、内容も知っている」が19.7%であり、内容を知らない人は、「聞いたことはあるが、内容まで知らない」と「知らない」を合計して80.3%だった。

【問2】（問1で、「1 聞いたことがあり、内容も知っている」、「2 聞いたことはあるが、内容までは知らない」と回答した方にお伺いします。）「農業・農村の多面的機能」のうち、知っている役割は何ですか？次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



「食料を生産する場としての役割」が19.0%と最も多く、続いて「洪水や土砂崩れを起こりにくくする役割」が17.0%、「いろいろな生きものを育む役割」が16.0%と多かった。

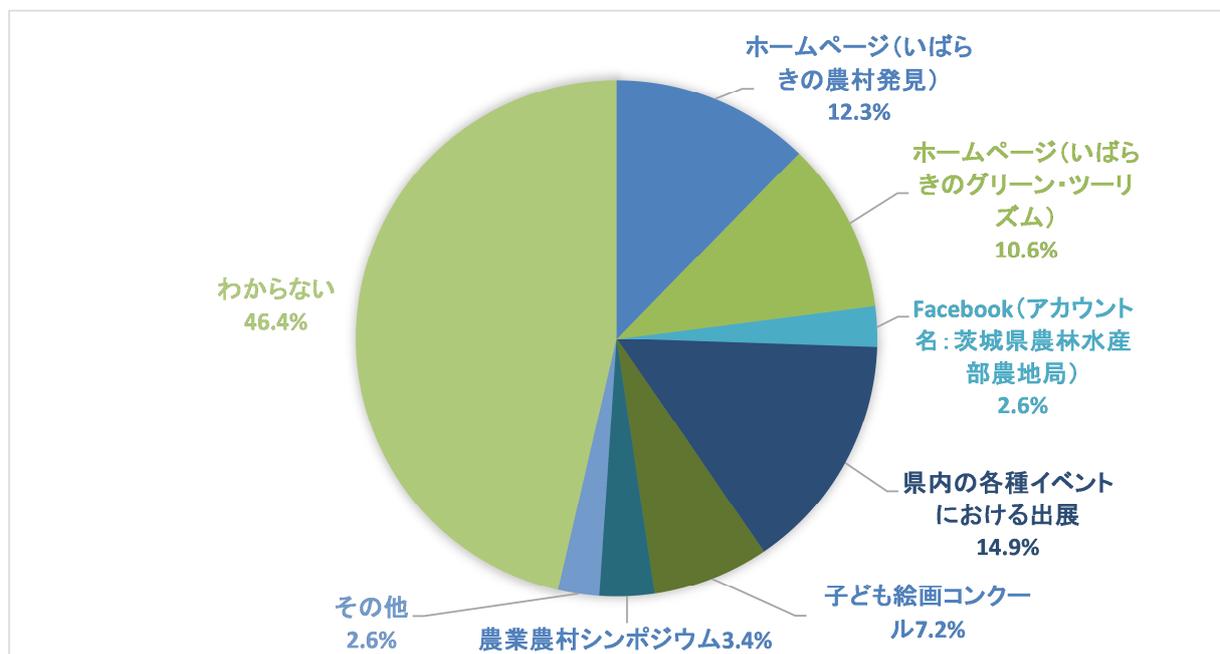
【問3】「農業・農村の多面的機能」のうち、重要だと思う役割は何ですか？次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



「食料を生産する場としての役割」が 22.2%と最も多く、続いて「洪水や土砂崩れを起こりにくくする役割」が 16.5%、「いろいろな生きものを育む役割」が 14.7%と多かった。

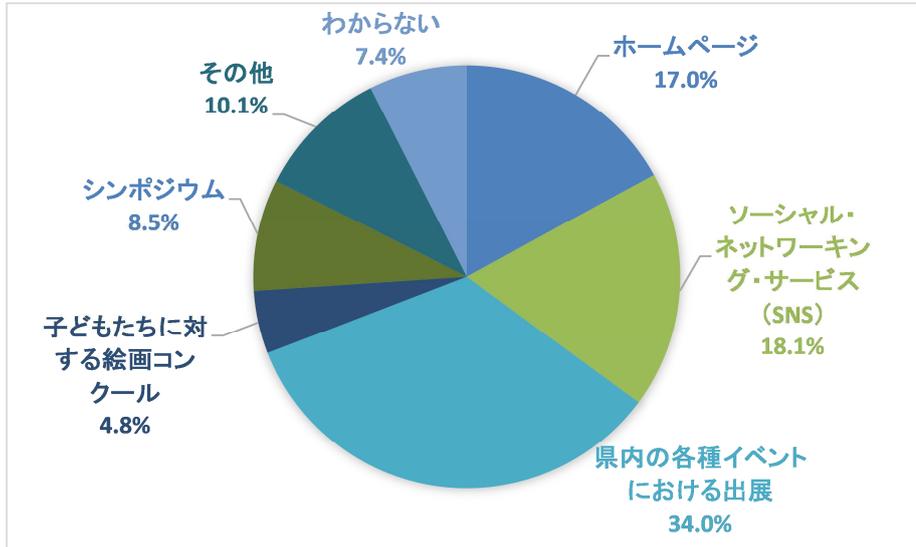
(2) 農業・農村に関する広報に対する認知度と意識について

【問4】県では、農業・農村に関する情報や多面的機能などについて広報活動を行っていますが、知っているものは何ですか？次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答可）



「わからない」が 46.4%と最も多く、続いて「県内の各種イベントにおける出展」が 14.9%、「ホームページ（いばらきの農村発見）」が 12.3%と多かった。

【問5】 農業・農村に関する情報や多面的機能などの情報発信について、何を重点的に行うべきだと考えますか？次の中から、あてはまるものを一つ選んでください。

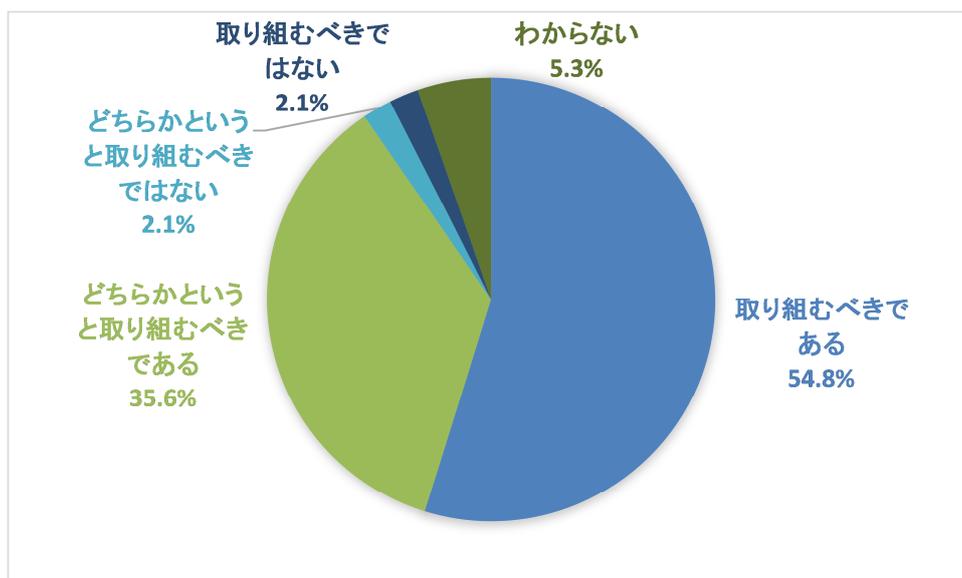


「県内の各種イベントにおける出展」が 34.0%と最も多く、続いて「ソーシャルネットワーキング・サービス」が 18.1%、「ホームページ」が 17.0%と多かった。

(3) 農業・農村に関する子どもたちへの理解促進について

【問6】

現在、小学生を対象にして、田んぼに生息する生きものの調査や絵画コンクールなど農業・農村に目を向けてもらえる機会を設けていますが、これらの取組についてどのように考えますか？次の中から、あてはまるものを一つ選んでください。

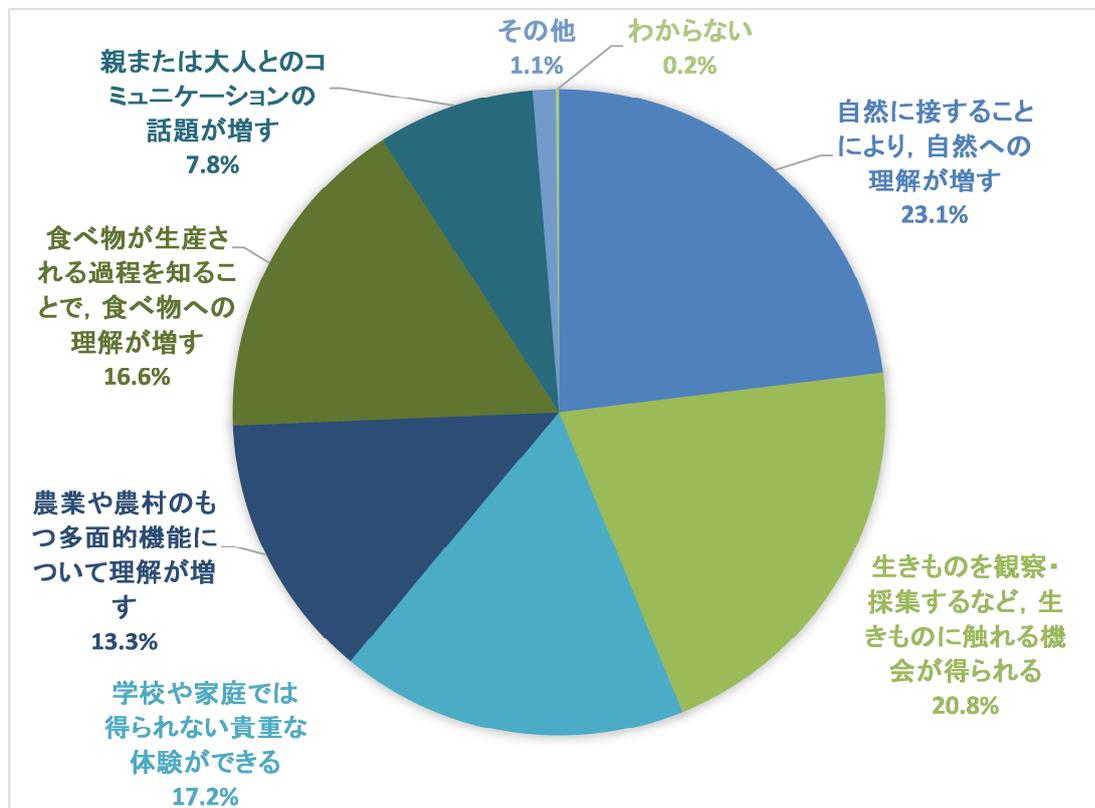


「取り組むべきである」が 54.8%、「どちらかというに取り組むべきである」が 35.6%と、取り組むべきと考える方が 90.4%となった。

【問7】

(問6で「1 取り組むべきである」, 「2 どちらかというに取り組むべきである」と回答した方にお伺いします。)

あなたは、田んぼに生息する生きものの調査や絵画コンクールなど子どもが農業・農村に目を向ける取組が、子どもの教育にとってどのような意味を持つと思いますか？次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



「自然に接することにより、自然への理解が増す」が 23.1%と最も多く、続いて「生きものを観察・採集するなど、生きものに触れる機会が得られる」が 20.8%、「学校や家庭では得られない貴重な体験ができる」が 17.2%と多かった。

【問8】

6で「3 どちらかというに取り組むべきではない」, 「4 取り組むべきではない」と回答した方にお伺いします。) 取り組むべきではないと思った理由をお聞かせください。(120文字以内)

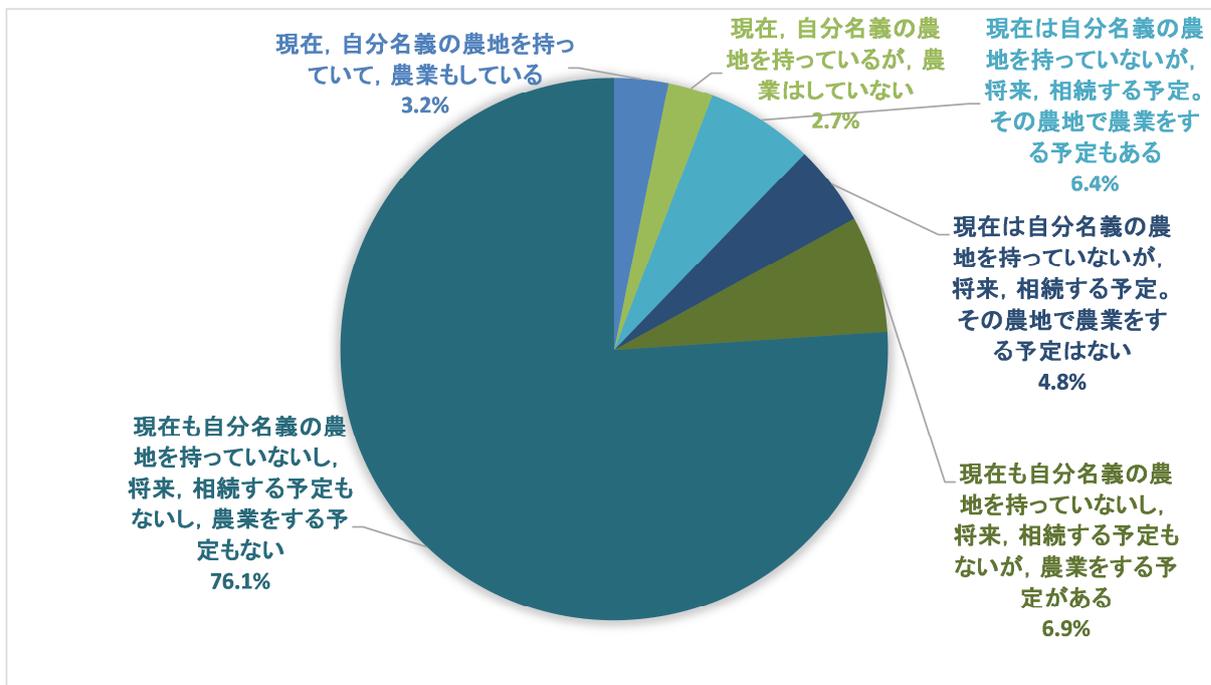
(主な意見は次のとおり)

- ・一時的に取り組んでも、受けた子が長く興味をもって、活動しなければ、意味ない。農業は自然の生活のなかで、溶け込むので、参加する授業ではない。
- ・社会の授業の中で、農業の重要性をしっかりと学習するべき。
- ・大人の都合で取り組みが行われているから

(4) その他

【問9】

現在県では、年代別に農業・農村の持つ多面的機能などを効果的に広報するために、自分名義の農地の利用状況を把握したいと考えております。次の中から、あてはまるものを一つ選んでください。



「現在も自分名義の農地を持っていないし、将来、相続する予定もないし、農業をする予定もない」が76.1%とほとんどを占めた。